



亀っ子だより

第41号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2021年6月18日

「この服、新品！」

ある朝、横断歩道に立っていると、女の子が一人登校してきました。「おはようございます」と声をかけると、横断歩道を渡りきったところでこちらを振り返り「この服新品！」とニコニコして教えてくれました。きっと、新しい服のことがとてもうれしかったのでしょう、登校していく後ろ姿もうきうきした足取りのように感じました。新しいものを買ってもらうことが当たり前になっては、きっとこの子のようにうれしい気持ちにはならなかったものと思います。お家の方の愛情とタイミングの良さが子どもの心に響いたのだと思います。上手に子育てをされているなと感じました。

「私の通学班の班長です」

ある朝、子どもたちの登校の様子を見ていました。すると、1年生の女の子と6年生の女の子が手をつないで私の前を通り過ぎました。2人は少し行くと戻ってきたので「どうしたの」と聞くと、「友だちを待つ」と1年生の子が答えました。5分ほど2人で待っていたのですが友だちは現れません。「先に行っちゃったのかもしれないよ」と声をかけると「分かった」と返事をした後、「この人、私の班の班長さん」とその女の子が6年生を自慢げに紹介してくれました。友だちを待つ間、一緒に待っていてくれた6年生の優しさに感心するとともに、2人の関係をとても微笑ましく思いました。



子どもたちの歯の健康が心配です

先日、保健室をのぞいたとき養護教諭の家田先生が「歯科検診をしているとき、子どもたちの歯の汚れが以前より増しているのではと心配しています」と話してくれました。学校歯科医の畑中先生が歯科検診のために来校された時に「子どもたちの歯の健康について、畑中先生は気になることはありますか」と聞いてみました。すると、「子どもたちの歯が汚れていると私も感じています」と答えてくれました。そして、子どもたちの歯ぐきも以前より腫れている子が多いように感じるともおっしゃっていました。その原因としてマスクの着用をあげていました。「マスクをしていると、どうしても口呼吸になります。そうすると、口の中のだ液がすぐに乾いてしまい、だ液で落ちるはずの歯の汚れが残ってしまっているように思います。また、保護者が子どもの歯や歯ぐきを見る機会が減っているように思うので、歯や歯ぐきの様子に目が行き届きにくくなり、子どものブラッシングがルーズになっているのではないかと考えています」とおっしゃっていました。昨年度見合わせていた給食後の歯磨きを、家田先生発案のコロナ対策をしながら4月から行っています。私たちの身体は、食べたものからできています。もっと言えば、食べて消化吸収されたものからできています。だから、口の健康は身体の健康、将来の健康につながると言っても過言ではないでしょう。マスクで隠れていることが多い歯や歯ぐきの健康を、お家でも気をつけてください。きっと、お子さんの健康な身体の成長につながるものと思います。

運動委員会による外で遊ぼうキャンペーン

6月7日から18日まで、運動委員の発案で「外遊びキャンペーン」を行っています。目的は、「全校児童が元気よく外で遊ぶきっかけをつくる」「外遊びを通して、ペア学年などの他学年との交流を深める」です。大放課と昼放課、運動場で遊んだ子たちに運動委員が昇降口でカードを配り、そのカードを教室で回収し、カードの枚数が多かったクラスを表彰しようというものです。私は、亀崎小の子どもたちに、放課は運動場で力一杯遊んでほしい思っているのですが、この発案が子どもから出てきたことをとてもうれしく思っています。予鈴が鳴った後、昇降口前に立ってカードを配る運動委員も明日配るカードを準備する運動委員会の先生も大変そうですが、その姿から目的を達成したいという強い思いを感じます。

もう一つ、今回のキャンペーンでうれしいことがありました。キャンペーン中、あるクラスに入っていくと男の子2人が近寄ってきて「カードが重なっていました」と余分にもらったカードを私に手渡しました。「ありがとう」と言って受け取りましたが、よくよく考えてみると、余分にもらったカードを係に渡してしまえばクラスはたくさん点数が入るわけで、表彰される可能性が高くなります。でも、この2人はそうはしませんでした。子どもたちの正直さを、とてもうれしく思いました。

♣ 子育てアラカルト ♣

【母親の役割は子ども心のケア】

子どもが怪我をして「痛い!」と言っている。あなたは どうする？

- ①「大丈夫、たいしたことないよ。痛くない」と言いながら手当てをする。
- ②「ほんとは痛いでしょ。我慢強いわね」と言いながら手当てをする。

【解説】

子どもは「痛い」ということを言っているのではない。「痛いけど僕は頑張っているぞ。偉いだろう。すごいだろう」と訴えているのである。

母親にその「強い自分」を認めてほしいのである。

軽い傷を大げさに騒ぐ子どもは、決して「痛いのを治してくれ」と言っているのではない。

そこを間違えるから子供は、いよいよ大きく騒ぎ、すねる。

【こんなこと危険です】

- | | | |
|------------|-----------------------------|------------------|
| ① 白黒思考 | ・ ○か×しかない | ・ All or Nothing |
| ② 一般化のし過ぎ | ・ 世の中ってそういうものよ | ・ 一般的にはそう決まってる |
| ③ 心のサングラス | ・ 一つの嫌なことにこだわって、すべてが真っ黒に見える | |
| ④ マイナス思考 | ・ よいことや何でもないことを悪いことにすり替える | |
| ⑤ 先読みしすぎ | ・ どうしよう もうだめだ 絶望的だ | → なんとかなるさ |
| ⑥ 双眼鏡のトリック | ・ あの人は立派だ。それに比べて私は・・・ | → 自分にもいいところはある。 |
| ⑦ 感情的決めつけ | ・ うまくいかなかった。それが私のダメな人間の証明だ。 | |
| ⑧ べき思考 | ・ ○○すべき。べき、べき | → したほうがいいのかも |
| ⑨ レッテル貼り | ・ 私はこういう人間。あの人はこう・・・ | |
| ⑩ 責任のとりすぎ | ・ みんな私が悪いのよ | → 極端はいけない ほどよく。 |

(ある教育者のひとり言 より)